市制 20 周年記念



## 高柳の夜店・伊勢和紙

~20年後も残したいもの~

厚生小学校 令和 6 年度 4年生の取組

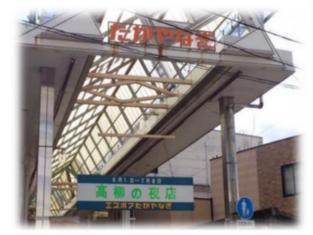


## 「高柳の夜店」

令和6年で、第105回目となる伊勢の夏の風物詩「高柳商店街の夜店」は、大正時代の夜店に始まったとされています。伊勢の人なら合言葉のように知っている「1 (いち)・6 (ろく)・3 (さん)・8 (ぱち)」。もともとの開催日は、3と8の付く日だけだったそうです。その後、1と6の付く日や土曜日も加えられたという貴重なお話を高柳商店街振興組合の奥田さんから教えていただきました。新型コロナウイルス感染症が流行していた数年間は開催が中止されていた夜店でしたが、令和5年には再開され

て、待ち望んでいた多くの人々が集いました。

夜店に出る屋台の食べ物 (やきそば、焼きとうもろこ し、かき氷、チョコバナナ 等)は、昔も今も子どもたち からの人気が高く、時代をこ えて親しまれています。





## ~新聞を作ろう~

奥田さんのお話やホームページで調べたことを取りまとめ、複数のチームに分かれて新聞作りをしました。編集後記には「夜店についてもっと調べたい。」「知らないことがたくさんあり、今回の学習をしてよかった。」「いつまでも大好きな夜店が続きますように。」等の感想が多く記されていました。今後、夜店にかかわる人たちの高齢化や屋台数の減少等、さまざまな課題があることも聞かせていただきました。伊勢の夏の風物詩として人々から愛される「高柳の夜店」には、たくさんの人の思いがこめられていることがわかりました。







児童の新聞より



## 「伊勢和紙」

厚生小学校の西門から徒歩5分という場所に、1899年(明治32年)に創立された伊勢和紙を製造する会社があります。伊勢和紙は、伊勢の神宮の御神札(おふだ)を全国家庭に頒布するため、明治初

期よりこの地で作られるようになりました。

工場では昔ながらの手すきによる製造だけで



なく、機械すきによる和紙の製造も行われています。和紙の原材料はコウゾ、ミツマタ、ガンピなどの植物の樹皮です。表皮の内側にあるじんぴから繊維を取り出し、さまざまな工程を経て美しい和紙に仕上げていきます。

見学では、職人さんによる熟練の手すき工程を間近で見ることができました。

手すきによる 伊勢和紙の 製造のようす

また、この工場で製造される和紙の種類はさまざまで、伝統的な和紙の他にも写真印刷用のものやインクジェットプリンタ対応のものまであります。





敷地内に生えている ミツマタ

今回の学習の一環として、図工の木版画を伊勢和紙に刷って仕上げました。

伊勢和紙の みりょくが 伝わるとい いな!



学習の最後に、まとめ として新聞作りを行いま した。わたしたちの校に に、こんなにすばらしい 伝統産業があることを って、おどろきました。 同時に誇らしい気持ちに もなりました。



児童が作成した新聞の一部より